

無料 (ご自由にお持ち帰り下さい)

編集・発行／茨城県立中央病院・茨城県地域がんセンター

茨城県立中央病院・茨城県地域がんセンター

〒309-1793 茨城県笠間市鯉淵6528 ☎0296-77-1121

ホームページ <http://www.hospital.pref.ibaraki.jp/chuo/>

2020年
Vol.39

ほっとタイムズ

教えてドクターQ&A 糖尿病について



心臓リハビリテーション部門のスタッフ



言語聴覚療法部門のスタッフ



作業療法部門のスタッフ

特集

「リハビリテーション技術科」

ドクター紹介 7

消化器内科 部長 五頭 三秀

消化器内科 部長 大関 瑞治

当院で活躍する認定看護師 7

摂食・嚥下障害看護認定看護師 後藤 裕子

連携医療機関のご紹介 8～9

長尾眼科／八郷整形外科内科病院

千葉歯科クリニック／八須藤歯科医院

地域連携だより 各診療科のご紹介 10

歯科口腔外科

病院長メッセージ

「ロボット支援手術の導入とその後」 11

地域連携栄養指導のご案内／

当院のコロナ感染対策について 12

医療を
ささえる
スタッフ

リハビリテーション技術科

リハビリテーション技術科では各専門の療法士が多種多様な病気や怪我、障害により身体機能の低下した患者さんに対し、医師の指示のもと、患者さんの症状や状況に合わせ、機能回復のサポートをしております。今号では患者さんが身体的・精神的・社会的にも、できる限り、元の社会生活を取り戻せるよう、日々サポートに奮闘するリハビリテーション技術科をご紹介します。



リハビリテーション技術科 科長
アボット みのり

リハビリテーション技術科には、理学療法士16名、作業療法士8名、言語聴覚士3名、受付2名の計29名が在籍し、入院・外来患者さんのリハビリテーションを行っています。

対象の患者さんは年々増加し、産科・眼科を除くすべての診療科からご依頼をいただいています。一般病棟はもちろん、ICUからPCUまですべての病棟に対象の患者さんがいらっしゃるため、今年度は病棟担当制の導入や入院・外来の専用訓練室を設置し、新型コロナウイルス感染症やその他院内感染予防に努めています。

患者さんのリハビリテーションはもとより、早期離床チーム、RST(呼吸サポートチーム)、褥瘡ケア、排尿ケア、摂食嚥下、NST(栄養サポートチーム)等、様々なチーム医療にも参加しています。昨年から入院前支援センターと連携し、呼吸器疾患の患者さんに時間内歩行試験を実施し、術前のリハビリテーションにつなげるほか、術後は手術翌日からの介入を実現できるように土曜日診療を毎週に拡大し、その対象も整形外科、呼吸器外科、乳腺外科へと拡大して、周術期のリハビリテーションに力を入れているところです。

すべてのご期待にお応えするには、まだまだマンパワー不足ではありますが、患者さん的一天も早い社会復帰と「自分らしい生活」の実現に向け、あらゆる職種の方々とチーム一丸となって取り組んでまいります。どうぞ、お気軽に各スタッフにお声かけください。今後とも何卒よろしくお願いいたします。



各部門紹介



理学療法

理学療法は、運動機能の維持・改善を目的に運動療法や物理療法を行います。直接的な目的は運動機能の回復にあります。ADL(日常生活動作)の改善を図り、QOL(生活の質)の向上や患者さんに幸せな生活を送っていただくことを目的としています。脳卒中などの中枢神経疾患、整形外科疾患、呼吸器疾患、内科的疾患、外科周術期を対象とし、認定理学療法士のスタッフを中心に各領域の専門チームが、早期の離床や介入にあたっています。専門性を生かし、自主練習や生活指導、福祉用具や住宅改修の相談も行っています。



作業療法

作業療法は、日常生活動作に支障が生じた方に対して、様々な作業活動や日常生活を想定した作業の練習を通して、機能・生活動作の改善を図っています。また、動作の困難さを補うための道具や装置（自助具）の提案や、本人・ご家族に対して日常生活動作におけるアドバイスなども行っています。脳血管疾患による麻痺や高次脳機能障害、整形外科手術後の関節可動域制限、乳がんをはじめとした外科周術期などを対象に、早期から介入にあたっています。



心臓リハビリテーション

心臓リハビリテーションでは、理学療法士、作業療法士、看護師、医師がチームとなり、心不全・心筋梗塞などの心臓疾患の患者さんや心臓を手術される患者さんを対象にリハビリテーションを行っています。リハビリテーションの内容としては、早期から心臓の状態に合わせた運動を進め日常生活の自立・退院を目指しています。また、退院後の運動や生活習慣の指導を行い、不安なく社会復帰できるようにサポートしています。



言語聴覚療法

言語聴覚療法は、音声機能、言語機能の障害などにより、ことばでのコミュニケーションが困難になっている方に対し、専門的サービスを提供し、支援しています。また、注意や記憶といった言語以外の高次脳機能や摂食・嚥下の問題にも専門的に対応しています。当院では主に、成人の脳血管疾患、頭部外傷、神経筋疾患、廃用症候群、癌などの様々な疾患の方を対象に、医師の指導の下、検査及び訓練、指導を行っています。

リハビリ室や病棟でのカンファレンス実施

医師、看護師、リハビリ担当者、医療相談員などの多職種が参加して、定期的にカンファレンスを開催しています。患者さんの状態や今後の方針についての情報を各職種が共有し、共通の認識を持って診療にあたっています。



理学療法部門のスタッフ

いつでも笑顔でお迎えします♡



受付スタッフ



当院で活躍する 作業療法士の

た ぐ ち ま き
田口 真希さんに聞きました！



Q. 作業療法士を目指したきっかけを教えてください。

A. 幼少期に祖父の入院をきっかけとして、医師や看護師などの医療職に憧れを持つようになりました。高校生になり進路を考えると、幼少期の憧れの医療職の中で、特に日常生活に密着した医療職である作業療法士について興味を持ちました。

Q. ずばり！作業療法士の仕事のどこに魅力を感じますか。

A. 病気やケガなどを理由に、日常生活活動・仕事・趣味などにおいて何かしらの支障が生じた方が、元の生活・仕事・趣味に復帰をしたり、新たな方法を見つけるためのお手伝いができるところが作業療法の魅力だと思います。

Q. やりがいを感じる時はどんな時ですか。

A. 患者さんが、病気やケガで一度できなくなってしまったことが再び出来るようになって、嬉しそうにしている様子や自信を取り戻していく姿を見る時です。

Q. 作業療法士として挑戦したいことや目標はありますか。

A. 現在は、認定作業療法士の資格取得へ向け挑戦しています。知識や経験を増やし、作業療法の活躍の場面を増やしていきたいです。

Q. それでは最後に読者の方へメッセージをお願いします。

A. 各部門紹介でもあげたように、リハビリテーション技術科はそれぞれの専門性を活かして患者さんの日常生活活動の改善などを目指して介入を行っています。病棟での日常生活動作や移動方法、退院後の福祉用具の選定などに関しても、お気軽にご相談いただければと思います。



作業療法の様子

糖尿病について

～糖尿病にならないために知っておきたいこと～

Q：糖尿病とはどんな病気ですか。

A：インスリンは膵臓（すいぞう）で作られ出されるホルモンで、細胞が血液の中からブドウ糖を取り込んでエネルギーとして利用するのを助ける働きをしています。インスリンの作用が不足すると、ブドウ糖を利用できなくなり、血液中のブドウ糖濃度（血糖値）が高くなり、この状態が継続するのが糖尿病です。厚生労働省の2016年国民健康・栄養調査によると、国内の糖尿病患者数は約1,000万人と推定されています。

Q：糖尿病の原因を教えてください。

A：まず、糖尿病は成因に基づいて、「1型糖尿病」「2型糖尿病」「その他の特定の機序・疾患による糖尿病」「妊娠糖尿病」に分類されます。この中で、最も多いのが、2型糖尿病です。2型糖尿病は加齢のほか日常の生活習慣が誘因となって発病するので、「生活習慣病」といわれ、食べすぎ、運動不足、肥満、ストレス、アルコールの飲みすぎなどが原因とされています。

Q：糖尿病は遺伝しますか。

A：糖尿病そのものが遺伝するわけではありませんが、「糖尿病になりやすい体質」は遺伝すると考えられています。つまり糖尿病になりやすい体質を持った人に、食べすぎ、運動不足、肥満などの環境因子が加わり、糖尿病になると言われています。

Q：糖尿病にならないためにはどうしたらよいでしょうか。

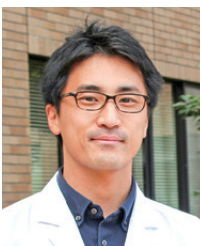
A：「こうすれば絶対に予防できる」・「これを食べれば（食べなければ）よい」というものはなく、一般的に以下のことが薦められています。

1. バランスのとれた食生活（総エネルギーと脂肪の摂取量に注意）
2. 夜食をしない、間食をしない
3. アルコールはほどほどに（1日平均純アルコールで約20gまで）
4. 適正な体重の維持
5. 運動習慣（1日平均1万歩以上歩くことを目標に）
6. ストレスの解消
7. 禁煙



Q：糖尿病とメタボリックシンドロームは関係がありますか。

A：糖尿病と高血圧、脂質異常症、肥満が、互いに関連し合い動脈硬化を進展させることが知られており、「メタボリックシンドローム」と呼ばれています。特定健診（基本健診）は、メタボリックシンドロームをはじめとする生活習慣病に着目した健診で、自分の体の状態を知る事ができるチャンスですので、年に1度は特定健診を受けましょう。



志鎌先生から
ひとこと

内分泌代謝・糖尿病内科
医長

し かま あきと
志鎌 明人

“気付かぬうちに糖尿病が進行していた”とならないように、生活習慣に気をつけるとともに、年に一度は特定健診を受けて健康管理をしましょう。また、すでにかかりつけ医で生活習慣病の治療を受けている患者さんを対象に当院で栄養指導を行っております。くわしくは12ページをご覧ください。

ドクター紹介



消化器内科
部長

ごとう みつ ひで
五頭 三秀

地元、土浦市荒川沖の出身です。新宿区の大学病院で12年間大腸疾患を中心に研鑽を積んでまいりましたが、縁あって2003年より当院で勤務することとなり、今年で18年になります。

地元の基幹病院ということで、消化器疾患全般にわたり診療することが求められ、当初は悪戦苦闘した思いがあります。現在は各部門のエキスパートが揃い、充実した環境で診療にあたらせて頂いております。得意分野は炎症性腸疾患（潰瘍性大腸炎やクローン病など）の診療ですが、今後も専門性を活かしつつ、より地域医療に貢献できるよう精進してまいります。



消化器内科
部長

おお ぜき みつ はる
大関 瑞治

消化器内科一般が専門です。2007年から茨城県職員として赴任し患者の治療にあたっています。超音波内視鏡を用いて早期の病変を見つけ『治らない病気』といわれてきた膵臓がんを治したいと思っています。地域に根差しながらも大都市圏の大病院に劣らないような診療を心掛け、日々研鑽しています。医師になって20年、素晴らしい上司、仲間、家族に支えられ充実した日々を送らせていただいています。今後も患者さんの気持ちに立った医療を目指していきたいと思っています。

● 当院で活躍する認定看護師 ●

摂食・嚥下障害看護認定看護師

ごとう ゆう こ
後藤 裕子



写真左より後藤看護師、加倉井看護師

摂食嚥下チームの一員として、多職種で協働しながら活動しています。摂食嚥下障害というのは、「食べる」ための機能が低下し、誤嚥や窒息を起こしやすくなってしまいう障害です。脳梗塞、パーキンソン病、認知症などの病気による影響だけではなく、加齢や入院による廃用症候群により、「食べる」ための機能が衰えてしまいます。そのような患者さんに対し、「食べる」ための機能を評価したり、「食べる」ための口腔内の状態を清潔に保ったり、安全に「食べる」ための食事形態を調整させていただいています。「食べる」ことは単に栄養や水分を摂取するための手段ではなく、日々の楽しみ、ご家族との団らんなど、生きるためのエネルギーだと思えます。今後も「食べる」ことを通し、患者さんやご家族が安心して入院生活を送れるよう、支援させていただきます。

かかりつけ医を
持ちましょう

連携医療機関のご紹介

長尾眼科

院長 長尾 完

平成元年に開業しました眼科有床診療所です。目は心の鏡と言いますが、体の鏡でもあります。眼科診療で全身疾患が見つかる事が多数あり、例えば眼底所見から糖尿病、高血圧症、血液疾患及びサルコイドーシスなど多岐にわたり、日頃から眼科疾患だけではなく、全身疾患の有無につき気にかけて診療しております。また、白内障日帰り手術、抗VEGF薬の硝子体内注射、網膜光凝固術などを行っており、特に加齢黄斑変性症などの黄斑部疾患については、大学病院の専門医を迎え診療しております。

今後とも引き続き、眼科疾患及び全身疾患について県立中央病院と連携させていただき、地域医療に貢献したいと思います。



■所在地：石岡市東府中1-15

■電話：0299-24-1100

■FAX：0299-23-8331

■診療受付時間：午前 8:30～11:30

午後 14:30～17:30

■休診日：水曜・日曜・祝祭日（土曜は午後も診療しています）

八郷整形外科内科病院

院長 仲田 敏明

当院は、1988年4月「八郷病院」として開院し、地域の皆様に支えられ、早くも32年目を迎えました。

整形外科では、日常生活における思いがけない怪我や、肩・腰・膝等の痛みで来院される患者様が多いです。骨折等により、安静を中心とした生活が長く続くと、筋力や身体能力の低下、精神状態に悪影響を及ぼします。生き生きとした生活を出るだけ早く取り戻すお手伝いをするために、当院では、手術等の迅速な対応と、筋力訓練などの運動器リハビリを重視しています。

また、大腿骨や股関節骨折等の患者様への早期リハビリを行うために、2018年より、回復期リハビリ病棟をオープンし、理学療法士や作業療法士と共に、ベッド上での寝返りから歩行訓練、食事や更衣など、目標をもち、在宅での生活がより円滑となるよう、看護師や管理栄養士なども加わりチームでサポートを行っています。変形性関節症の患者様には、痛みへの対応を重視し、関節内注射や、MRI・CTなどの検査も行ったうえで人工関節置換術等の手術も当院で行います。元気で笑顔あふれる毎日の暮らしを願い地域皆様にとっての「かかりつけ医」として、また、県立中央病院との連携により、さらに安心な医療を提供できるよう、スタッフ一同、一生懸命努めて参りたいと思っております。



■所在地：石岡市東成井2719

■電話：0299-46-1115(代)

■FAX：0299-46-5998

■診療受付時間：午前 ～12:00、午後 ～17:00

■休診日：土曜午後・日曜。祝日（休診日も急患の方は診療可）

■ホームページ：<https://www.yasato-seikei.com>

ここでは患者さんやご家族の日常的な治療や健康管理を考えてくれる、地域の身近で気軽に相談できるかかりつけ医である医療機関をご紹介します。

医療法人社団佳愛会 千葉歯科クリニック

院長 千葉 順一

1991年の開業以来、「心とからだの健康は、お口の健康から」をコンセプトとし、一生 生涯 食事や会話を楽しみ、素敵な笑顔でお過ごしいただけるよう、かかりつけ歯科医として皆さまの健康のサポートに努めて参りました。

常勤歯科医師4名、非常勤歯科医師3名、歯科衛生士9名、歯科助手4名、受付2名のチーム医療体制と最新の医療設備を整え、患者様一人一人に寄り添った安心・安全な総合的歯科医療サービスを提供いたします。

歯周病やむし歯などの疾患や、口腔機能・口腔衛生状態が、お体に影響することが解ってきています。お口のトラブルにより、病院での治療が滞ることのないよう、連携歯科医師として微力ながらお役に立てれば幸いです。



■所在地：石岡市石岡 1-12-1

■電話：0299-22-5752

■診療受付時間：平日午前 9:00～13:00 午後 14:30～18:30

土曜午前 9:00～13:00

■休診日：日曜・祝日・土曜午後

須藤歯科医院

院長 須藤 孝秀

当院は昭和62年6月、石岡にて開業、その後平成19年11月に自分の理想とする診療を目指すべく診療所を立て替え、現在に至っております。

「安心、安全な医療」および「予防こそ究極の医療」が当院のコンセプトです。

人類は細菌と共生することにより、身体の適応能力を高め生き延びてきました。しかしながら抗菌性を高めた様々なものが満ち溢れている昨今、人間としての適応能力は逆に落ちてきているような気がします。

口腔内には数百種類もの細菌が住み着いています。それらを一掃するのではなく、適正な数とゆったりとした活動性のもと、きれいな口腔内環境を維持することが、健康維持における最初のゲートキーパーである歯科医の役割とっております。



■所在地：石岡市東光台4-11-1

■電話：0299-26-6601

■診療受付時間：午前 9:00～12:30 午後 14:30～17:00

■休診日：日曜・祝祭日および水曜もしくは木曜

詳しくはホームページをご確認ください (URL: <http://sutou.dentalmall.jp/>)

地域連携 だより

地域連携機関の皆さま方には当院の地域連携に格別のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。

また、患者さんにおかれましても常日頃ご支援をいただき、誠にありがとうございます。地域連携だよりのコーナーでは当院の情報をお知らせいたしますので、今後ともよろしくお願いいたします。

各診療科のご紹介



歯科口腔外科

部長 おお き 大木 こう すけ 宏介 (写真上段 左)

当院の歯科口腔外科は2017年4月に開設したばかりの新しい診療科であり、今年で4年目を迎えました。

開設当初は常勤の歯科医師1名体制でしたが、2018年8月から筑波大学附属病院茨城県地域臨床教育センターの柳川徹教授が口腔統括局長に就任されたことにより、口腔がんなどの高度な治療にも対応可能となりました。特に県北や県中地域で筑波大学附属病院までの通院が困難な患者さんのニーズにお応えできるよう診療に取り組んでおります。また昨年には歯科診療用チェアが2台から3台へと増設され、歯科衛生士も増員となり診療体制の充実が着実に進んでおります。歯科衛生士は常勤1名および非常勤2名の3名体制で、主に専門的口腔ケアなどの『周術期等口腔機能管理』に取り組んでおり、現在は1ヶ月に100名以上の患者さんに対応致しております。歯科口腔外科では外来診療室にて全身疾患を有する患者さんに対する口腔外科手術を行うことが多いため、常勤看護師も1名常駐しており体調の変化に対して細やかな対応を致しております。

また当科では医科歯科連携に重点を置いており、主に当院でがん治療（手術療法・化学療法・放射線療法・緩和ケア）および心血管外科手術等を受けていただく患者さんのお口の機能管理を行い、計画された治療がお口のトラブルで滞ることのないようサポートすることを重視しています。このために歯科医師会と協力して病診連携を推進しております。入院前支援センターでは手術前の口腔機能管理を連携する歯科診療所に依頼し、入院中は当科で引き継いで行い、退院後は再び歯科診療所で治療をお受けいただく、いわば『リレー方式』を基本としております。御協力頂いている歯科診療所の数は増えつつあり、医科歯科連携および病診連携は地域に根付いてきております。

地域の皆様に対して今後もより質の高い歯科医療を提供できるよう努めて参りますので、今後とも何卒宜しくお願い申し上げます。

—第2回—

「ロボット支援手術の導入とその後」

茨城県立中央病院
茨城県地域がんセンター

しま ずい
病院長 島居

とおる
徹



本年春に予定していたロボット支援手術（以下ロボット手術）の公開講座が新型コロナウイルス感染症の拡大のため中止となってしまいましたので、本手術の歴史と当院の今後についてご紹介します。

ロボット手術はダヴィンチ手術に代表されますが、これはもともと米国陸軍が遠隔操作で戦場の負傷者に必要な手術を行うことを目的に開発されました。湾岸戦争が早期終結したため、以後民間で開発され2000年7月に米国で承認された機器です。日本でも機器は2000年に導入されましたが、本格稼働は2012年4月に前立腺がんのロボット手術が保険収載されてからです。

腹腔鏡や胸腔鏡を用いた内視鏡外科手術のひとつで、拡大3D画像と人の手同様かつ直感的に操作できるロボットアームを有し、従来の内視鏡手術では難しかった縫合操作などが自在にでき、手術の侵襲も軽減できる手術法です。骨盤腔など開腹手術でも操作が制限される部位の手術では、開腹手術よりも操作しやすい場合も多く、前立腺の手術などでめざましい普及をしてみいました。

当院では、2013年にこのダヴィンチシステムを導入し、同年9月に第一例目の前立腺全摘術を実施、以後、本年の7月までに計462例のロボット手術を施行致しました(表)。現在国内では21術式が保険収載されていますが、当院ではこの中の10術式で施設基準を満たしており、今年秋には

新たな術式の開始も予定しています。

ロボット手術は、今後、内視鏡手術がさらに患者さんに優しい手術として、普及していくことに貢献するものと考えられます。もし当院でのロボット手術を希望される場合は、担当の先生とご相談の上、紹介受診あるいはセカンドオピニオン外来受診をご検討くださいますと幸いです。

保険 収載年	ロボット支援手術の術式	当院で実施 できる手術	実施 症例数
2012	腹腔鏡下前立腺悪性腫瘍手術	○	309
2016	腹腔鏡下腎悪性腫瘍手術	○	96
2018	胸腔鏡下縦隔悪性腫瘍手術	○	1
2018	胸腔鏡下良性縦隔腫瘍手術	○	6
2018	胸腔鏡下肺悪性腫瘍手術 (肺葉切除又は1肺葉を超えるもの)	○	18
2018	胸腔鏡下食道悪性腫瘍手術	—	—
2018	胸腔鏡下弁形成術	—	—
2018	腹腔鏡下胃切除術	—	—
2018	腹腔鏡下噴門側胃切除術	—	—
2018	腹腔鏡下胃全摘術	—	—
2018	腹腔鏡下直腸切除・切断術	—	—
2018	腹腔鏡下膀胱悪性腫瘍手術	○	10
2018	腹腔鏡下腔式子宮全摘術	○	2
2018	腹腔鏡下子宮悪性腫瘍手術 (子宮体がん)	○	20
2020	胸腔鏡下拡大胸腺摘出術	○	0
2020	胸腔鏡下肺悪性腫瘍手術(区域切除)	○	0
2020	腹腔鏡下腎盂形成手術	△	—
2020	腹腔鏡下仙骨腔固定術	—	—
2020	縦隔鏡下食道悪性腫瘍手術	—	—
2020	腹腔鏡下腓胝尾部腫瘍切除術	—	—
2020	腹腔鏡下腓胝頭部腫瘍切除術	—	—
合 計			462

△：2020年秋に開始予定

地域連携栄養指導のご案内

当院では、かかりつけの医療機関からのご紹介をもとに当院の管理栄養士が栄養指導を行う「地域連携栄養指導」を行っています。お食事でお困りのことや疑問に思っていることなど、ぜひお気軽にお聞きください。地域連携栄養指導を受ける流れは以下のとおりです。



◆地域連携栄養指導ご利用の流れ◆

①かかりつけの医療機関からのご紹介でご予約をお取りします。ご紹介用の紹介状の様式は当院のホームページに掲載しています。

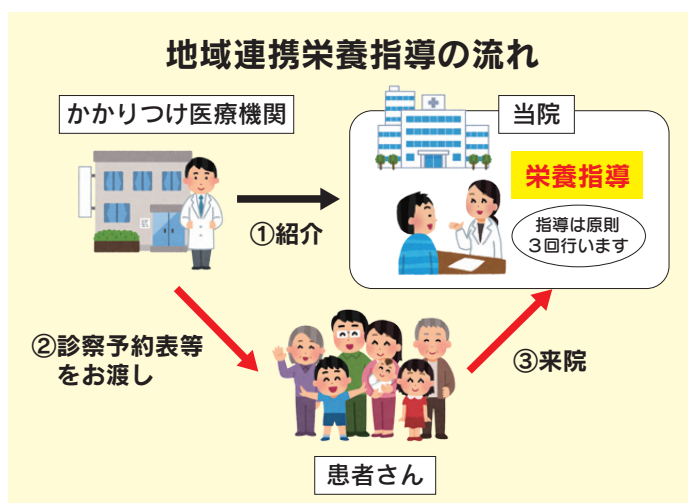
掲載場所：<https://www.hospital.pref.ibaraki.jp/chuo/eiyoshido>

②ご予約の日時を診察予約票（予約日時が書かれたもの）でお知らせします。

③ご予約日当日は下記の「当日ご持参いただくもの」をお持ちの上、来院ください。管理栄養士が食事療法のご相談に応じます。（1回30分程度、栄養指導は3回行います）

◆当日ご持参いただくもの◆

- ☐健康保険証
- ☐診察予約票
- ☐診察券（お持ちの場合）
- ☐最近受けた検査の結果
- ☐ご記入頂いた食事記録
（携帯電話やカメラなどで撮影した写真データでも可）
- ☐お薬手帳



～院内の感染対策を強化しています～ 皆さまのご理解とご協力をお願いいたします。

外来診療 紹介状と予約のない初診はお断りしています。
来院前の体温測定で37.5度以上ある場合は受診をお控えください。
来院時は必ずマスクを着用してください。

入院診療 入院中に発熱など新型コロナウイルス感染症を疑う症状等が発生した場合は、診療内容の変更、部屋の移動、PCR検査、転院等をお願いする場合があります。また、出産前や手術内容に応じ、PCR検査を実施します。

面会の制限 医療者側からお願いする以外は、病棟の面会は原則禁止しております。荷物の受け渡しは、各病棟の窓口で職員が対応します。

※感染拡大状況に応じ、変更することがございます。当院ホームページも合わせてご確認ください。

茨城県立中央病院・茨城県地域がんセンター

〒309-1793 茨城県笠間市鯉淵6528 ☎0296-77-1121

ホームページ <http://www.hospital.pref.ibaraki.jp/chuo/>

